

1. 主題設定の理由

新学習指導要領が施行され、中学校国語科の目標では新たに「伝え合う力」の育成を重視している。これからの国際社会を「生きる力」として論理的に考え、表現する力が必要である。さらに情報化の進展により、それを取捨選択して再構成する能力も伴わなければいけない。説明的文章を「読む」とは筆者の論理の展開を「読む」ことであり、情報収集することでもある。週的时间数が削減された中、教科書教材の説明的文章で、論理的な思考力を付けるために、効率よく指導できる方法はないかと考えた。

2. 研究目的

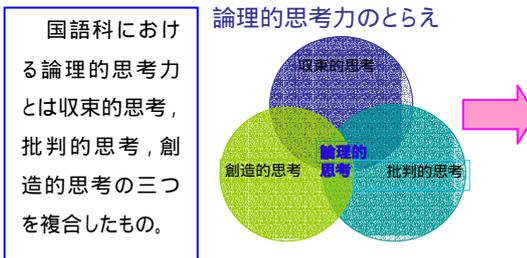
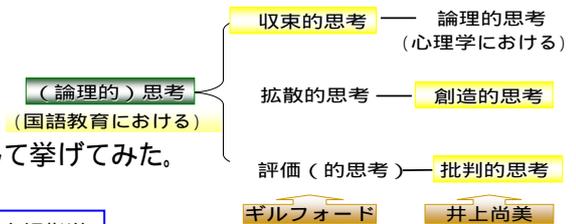
- (1) 「国語科における論理的思考力とは何か」をできるだけ具体的に、明らかにする。
- (2) 論理的思考力を育成するために、どのような授業を行っていかなければいけないかを明らかにする。

3. 国語科における論理的思考力

- ・高橋俊三が国語教育での論理的思考を整理した。
- ・学習指導要領と対応させた具体的な力

中学校学習指導要領を整理し、「読むこと」「話すこと・聞くこと」「書くこと」それぞれの領域でつけた論理的思考力を集約した。それを【論理的思考のとらえ】と対応させ、より具体的な力として挙げてみた。

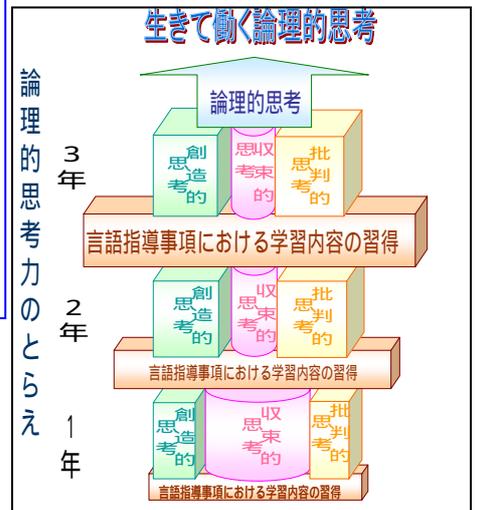
井上尚美分類，高橋俊三整理



説明的文章を「読むこと」で、言語指導事項により反復的、段階的に学習内容を習得する。その過程で、1年生では収束的思考を重点的に育成し、批判的思考と創造的思考を伸長する場面を持つ。2、3年生は収束的思考を伸長しつつ批判的思考と創造的思考を伸長する場面をより多く持つ。そうすることで、最終的に生きて働く論理的思考力が育成される。

4. 授業実践

- (1) 1年生・・・単元「ヒートアイランド」「暴れ川を治める」
 - 第1次: 「ヒートアイランド」の読解
 - 第2次: 「暴れ川を治める」(既習)と「ヒートアイランド」の比較読み。
- (2) 2年生・・・単元「神奈川沖浪裏」
 - 第1次: クラスタリングとマッピングによる説明文の作成
 - 第2次: 赤瀬川原平の説明的文章の特徴と、絵の説明文から分かりやすい説明の方法をつかむ



5. 研究のまとめ

説明的文章の指導事項(言語技術)の体系化が必要である。また、習熟度別学習においてさらなる授業開発を進めていく必要がある。

6. 結論

- 本研究の結果、国語科の論理的思考力について、以下のようにとらえ直した。
- (1) 国語科の論理的思考力は収束的思考力を育成しつつ、批判的思考力と創造的思考力を働かせる場面を持つことで伸長することができる。
 - (2) 国語科の論理的思考力は、説明的文章における、体系的言語指導事項を位置付けたカリキュラムに基づいて、系統的・段階的に学習していくことによって育成される。